

ばんけい

教育ほつとにゅーす  
かわら版こ みち  
教育の小径No.91  
5月号  
2016 May

今月のこぼ

## す むめば都

他人から見て、どんなに不便で辺鄙（へんび）な所でも、そこに長く住み慣れると、住みやすい所だと感じるようになるという、心のもちようを言ったものです。



国士館大学教授  
北 俊夫先生

## 授業参観日にどう備えるか

- 授業参観日は、保護者がわが子の学習状況を観察する機会であると同時に、学級担任に対して信頼を寄せる重要な機会でもあります。
- 担任は、保護者が授業中の子ども様子について理解を深めることができるように、授業の概要や参観のマナーなどを事前に伝えておきます。

今月の記念日

## 看護の日(5月12日)

この日は近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日です。1965年に「国際看護師の日」と定められました。日本では1990年(平成2年)に当時の厚生省が記念日として制定しました。

## 保護者の関心事は何か

5月になると、多くの学校で授業参観日が計画されます。4月に学級担任が変わった場合には、保護者は「新しい先生は授業をどのように行うのだろうか」「子どもにわかる授業をしてくれるのだろうか」「わが子は先生に馴染んでいるだろうか」といった期待感と不安感をもって授業を参観します。

授業参観する保護者の視線は教師とともにわが子に注がれます。わが子が先生の話の聞いているか。先生の指示を受けとめているか。授業に付いているかなど、保護者は学習内容の定着とともに、学習態度にも関心をもって観察しています。

保護者は「わが子が先生に指名されると、はらはらどきどきする」と言います。保護者の関心事はわが子の様子です。学級全体の動きにはあまり注意が向かないようです。こうした傾向は低学年ほど強く見られます。

保護者は、学級担任の挙手一投足を観察しながら、教師に対する理解を深めていきます。授業参観日は学級担任について保護者に知ってもらふ貴重な機会でもあります。ある意味で、教師が保護者から評価される機会でもあります。学級担任は当日に向けてさま

ざまな準備をし、緊張感をもって当日を迎えます。

授業参観日においてもっとも重視したいことは、「楽しい授業、わかる授業」を展開することを心がけ、授業のなかでどの子どもにも出番をつくることです。張り詰めた雰囲気のなかで笑いが出るとほっとします。

保護者はわが子が授業に生き生き楽しく取り組んでいる様子を観察しながら、担任に対して安心感と信頼を寄せるようになります。

## 保護者に伝えておきたいこと

保護者には事前に授業の概要について伝えておきます。実施する教科等名だけでなく、本時のねらいや授業の流れ、見どころなどを示したプリントを用意しておきます。本時の評価方法についても示しておくといでしょう。これらの記述に当たっては、専門用語などを使用せず、簡潔に示します。分かりやすいことが何より重要です。

保護者の多くはわが子の様子にのみ関心が向きがちです。このことを考慮して、子どもたちが教師の発問や指示にどのように反応しているか。授業に集中して取り組んでいるか。友だちとどのようにかかわりながら授業に参加しているかなど、授業参観の仕方につ

いても事前に伝えておきます。特に友だちとかわり合いながら学習を深めていく態度は、学校ならではの子どもの姿です。保護者は家庭で見ることができない姿を見ることができます。

参観後には、保護者から感想や疑問などを聞き取ります。アンケート調査を実施することも考えられます。結果は次の授業参観日に生かします。保護者から質問や要望などが出されたときには、誠意をもってできるだけ早急に対処します。学校としての対応が求められる課題については、学年で協議したり管理職に伝えたりして課題の共有化を図ります。

廊下や教室内でのおしゃべり、携帯電話の使用、許可なく子どもたちを写真撮影することなど、保護者の態度やマナーが話題になります。

これらの行動に対して、正しい知識をもっていない保護者もいると聞きます。事前に学級通信で伝えたり、廊下などに掲示したりして、注意喚起しておきます。また、PTAの役員などを通じて互いに注意し合う態勢をつくることも効果的です。



## 長所を伸ばせば、 短所は消える

人にはだれにでも長所といわれる優れたところと、短所と見られる課題や弱点があります。すべてが優れているオールマイティな人はけっしていません。こうした長所と短所は他の人と比較して顕在化されるものではなく、その人のなかで相対的に判断されるものです。その意味で、長所も短所もその人の個性だと言えます。

子どもをさらに成長させようとするとき、私たちはどうしても短所に目がいきがちです。そのため、苦手なところなど課題や弱点を改めるように助言します。助言された子どもによってはその方策が見いだせず、負担を感じることがあります。意欲が高まらず、見通しがもてなくなることもあります。

それに対して、長所に目を向け、さらに伸ばすよう励ます手だてがあります。「その調子でさらに頑張れよ」と言われると、元気が出てきます。長所はその子どもにとって得意分野でもありますから、自信をもってさらに意欲的に取り組み、その結果、長所はさらに成長していきます。

長所を伸ばすことによって、短所が相対的に薄まっていきます。その子どものなかから、短所がまったく無くなるわけではありませんが、長所がさらに際立っていくことによって、短所が見えにくくなるということです。「長所を伸ばせば、短所は消える」とは、子どもを育てる一つの考え方を言ったものです。

「長所は短所」という慣用句がありますが、見方を変えれば「短所は長所」とも言うことができます。視点を変えれば、対象である子どもの見方や理解の仕方も大きく変わります。

## 教員の体罰処分

文部科学省の調査によると、平成26年度に体罰で懲戒や訓告などの処分を受けた全国（公立学校）の教員は、952人でした。この内、懲戒処分の内訳は、停職が13人、減給が117人、戒告が104人でした。これらの数字は、平成25年度と比べると約4分の1に大幅に減少しているものの、体罰がいまなお後を絶っていないことを示しています。

処分された人数を校種別にみると、中学校教員が432人と、もっとも多くなっています。授業中や部活動の時間が長いと言います。小学校教員は

269人で、約6割が授業中の体罰でした。高校は217人でした。体罰の主な内容は、素手で殴る、蹴る・踏みつけるなどが多く、子どもにけがを負わせた教員は211人もいました。

体罰で処分された小学校教員の事例をみると、特別支援学級の子どもに対する体罰が目立ちます。

体罰は学校教育法（11条）で禁止されています。「子どもとの間に人間関係ができていれば許される」という意見がありますが、これは明らかに誤りです。いかなる場合にも、体罰で人を育てるという指導方法は本来存在しないことを厳格に受けとめる必要があります。体罰は暴力行為であり、けがなどを負わせた場合は傷害罪に、傷害に至らなくても暴行罪になります。

コラム

## ものの見方・考え方とは何か(19)

### ベストとベター

物事を見たり考えたりするとき、ベストとベターの視点があります。英語の授業では、ベストを最上級、ベターを比較級と言います。順序や等級などをつけるときや複数の対象から一つを選択するとき用いられます。

コンクールで優秀作品の一つを選定するとき、際立って優れたものが一つある場合には、それをベストなものとして判断することができます。これは絶対的な判断です。これに対して、だれが見てもベストだと判断できるものがない場合や甲乙つけがたい複数のものがある場合には、より優れたものを選択することがあります。これは他と比べてベターなものを選択するもので、相対的な判断です。

私たちの人生は毎日が問題解決の連

続です。そこでは適切な状況把握と判断力が求められます。そのような場面でベストなもの（こと）が決められるときにはそれほど悩むことはありません。ところが、いつもそうであればそれほど問題は無いのですが、人生においては、ベストなものが即決できないことが多々あります。このようなときには、「より優れたもの」「ベターなもの」を選択するという手法を取り入れることによって、問題を解決することができます。

いま子どもたちに判断力をはぐくむことが求められています。判断力は判断するという行為をとおしてはぐくまれるものです。判断するためには、そのための公正な基準と手続きが求められます。「ベストとベター」という視点を身につけることによって、ものの見方や考え方が養われていきます。

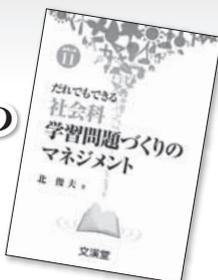
## INFORMATION

### 好評

## だれでもできる 社会科 学習問題づくりの マネジement

◎著者 北 俊夫  
◎定価 本体950円＋税  
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ



本書は、学校現場における先生方の悩みや課題を受け、私のこれまでの経験などを踏まえて、特に学習問題をつくる場面の指導のあり方について実践的に論じたものです。（「まえがき」より）

- I章** なぜ、問題解決的な学習なのか  
—社会科学習の全体像をつかむために—
- II章** 社会科における「学習問題」とは何か  
—大切なことは「学習問題文」より「問題意識」—
- III章** 「学習問題づくり」のどこが問題なのか  
—10のチェックポイント—
- IV章** 学習問題づくりの方法  
—その手ほどき—
- V章** 学習問題づくりの実例  
—各学年の典型事例—

## 編集後記

わずか一時間の授業参観でも、学級の雰囲気は見て取れるものです。穏やかに落ち着いた雰囲気の中でのびのびと学んでいる子どもたちの姿を見ると安心します。

(F記)

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2016年5月1日